

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成19年度 第7回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)	生涯学習部 社会教育課 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成20年1月23日(水)14時00分～16時00分		
開 催 場 所	川西市役所 5階 502会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、小柳副議長、森委員、敷地委員、後藤委員 佐道委員、武村委員、十河委員 計8名	
	そ の 他		
	事 務 局	後藤中央公民館長、山川社会教育課長 村上スポーツ課長補佐、羽瀬地域教育課主査 神吉社会教育課主任 計5名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1. 報 告 (1) 阪神南地区社会教育委員協議会研修会について (2) 平成19年度成人式について (3) 加茂遺跡第234次発掘調査成果について (4) その他 2. 議 題 (1) 年間テーマ「よりよい地域教育システムづくり」 (2) サブテーマ「人でつながる場づくり」 3. その他 (1) 教育委員との意見交換会について (教育委員会及び社会教育委員の会終了後、 市役所 4階 庁議室にて開催。)		
会議結果	別紙のとおり		

# 審 議 経 過

No. 1

議長

サブテーマ「人につながる場づくり」ということで、今回と2月をもって19年度の社会教育委員の会は終わります。この1年間のまとめを、今日と2月のところでまとめていかなければいけないということで、前回の社会教育委員の会では素案的なものを出して検討をしたわけです。諮問を受けて答申ということではなく、我々委員の自由論議という形でテーマを決め、いろいろと検討し、施策に反映していただきたいなという思いの部分で教育委員会に報告ということです。何か記録に残して、この会の終わりの時点で教育長宛に出すことができるものが完成したらと思います。

司会進行上、少しでも手助けになればなということで3枚ものの資料案を作りました。今日の「人につながる場づくり」につきましては総括の1、次は2という形でまとめに入らせていただきたいということによろしいでしょうか。

今までの議事録を私なりにまとめてまいりました。平成16年、A委員が議長をされていた時のテーマは「よりよい地域教育システムづくり」ということで16年度から4年連続で同じテーマで臨んでいるということが再確認されました。

16年度、17年度については同じテーマのもとで「青少年の居場所づくり」ということで18年3月30日に教育委員会の方に報告しています。

昨年18年度は同じテーマですが、「人につながる地域の輪」ということで、「豊かな地域づくりの推進」から「学社連携・融合の推進をはかる」という所の部分、大きく5点に渡って19年3月28日付けで教育委員会に報告しています。

そして、本年度の論議の経緯をポイントでまとめましたが、5月はサブテーマ「人につながる場づくり」を決定するにあたっての論議がされています。特につながるという意味合いの所で、つながるといふことの大切さが述べられていました。それを受けて6月、7月、11月と3回に渡って論議をしています。そして1月、2月の社会教育委

# 審 議 経 過

No. 2

議長	<p>員の会で総括するという形で私なりに議事録をまとめてみました。</p> <p>整理しながら16年度、17年度、18年度と常にくりくりと回って論議があるのです。テーマが一緒なので、場づくりであり、輪であり、居場所づくりであると。そして来月に阪神北の研修会があります。川西市としても提出しなければならないのですが、阪神北の研修テーマも全く同じなのです。どこの市町においても同じような形で論議されています。4年分をまとめた形の中で場づくりの論議を進めていきたいと資料を配らせていただきました。</p>
A 委員	<p>16、17年度青少年の居場所を求めてということで話をさせていただいて、その中でいろいろな問題点が出てきて、大切にしなければならないものというのが出てきたわけなのですが、これをきっちりやっていくためには学校、家庭、地域、そういう人の力を借りなくてはダメだということがわかってきた。それぞれのがんばりだけではどうしようもない部分もあって、そこから人でつながることが出てきた。お互いの連携を取ってやっていくという風な形で、18年度はそれを地域の輪として広げていくという話合いであったと思います。</p> <p>それから「人でつながる場づくり」ですね。お互いに意思の疎通を図りながら、情報の交換をしながらよりよいものを構築していくという作業をしない限り、ただ話し合っているだけでは進んでいけないという所で、「つながる場づくり」にきたのだと思うのです。最終的にはつながり方、情報公開や意思の疎通をもっともっとしっかりとやっていかなければならないし、人材の育成も必要になりますし、NPOというような存在も必要です。ただ何にしてもお金が掛かるので、ボランティアでやってしまうこともできるが、そういう所の話し合いが必要で、今そこに達しているのではないかと思います。</p>
議長	<p>6月、7月の議事録が一番充実していて、全て噴出しているような</p>

<p>議長</p>	<p>感じなのですが、このまままとめていくというのも一つの方法なのですが。A委員の言われた所を踏まえた部分で、過去の議事録を見ながら総括的な意味合いでの考えがありましたらお願いします。</p> <p>私も思案を作ったのですが、ものすごく厳選させていただいて、このテーマが決まって6月の所で論じたのですが、7月は家庭教育で半分近く論議し、あれがものすごく印象に残っています。</p>
<p>B委員</p>	<p>議長のメモにある「家庭教育の大切さ」という所で、「親と子という閉ざされた関係のみに教育を委ねるのではなく、多種多様な人間関係の中での地域教育を充実させることで、逆に家庭でしかできない教育の意義がよりいっそう明らかになると考える」というのが、本当に訴えたい。地域、学校、社会、コミュニティー、いろんな所で場づくりがされていますが、今の事件とかを考えると家庭の愛情の薄さが浮き彫りにされていますよね。今はらしくあるというのが、ダメな時代。女性らしくとか男らしく、母親らしくとか言ったらダメだと言われる。でもやっぱり生まれてきて男性と女性は質が違うのですよ。赤ちゃんは母親しか見ないのですよ。生んだ母親が愛情の元なのです。その母と子どもを守るのが父親なのです。守るためには稼いでこななければいけないのです。外へ稼いできて帰ってきて温かいご飯が待っていたら怒る男性がいますか。まずそれが基本だということを訴えていかなければならない。今、女性の方が弱くなっていると思うのです。女性が強くなっているというのは間違いだと思う。ただ空威張りだけだと思う。昔の女性は洗濯とか、たらいで洗濯板で一枚一枚洗っていたのですよ。今はポンで乾燥までできる。ご飯も無洗米を入れてポンでできる。それを男性と一緒にするということから始まっていることがおかしいのです。意識改革を訴えないと。母親なんだよ、母親らしくまずするべきで、それで社会進出していく女性もいいですよ。そういうことを教える親もいない、場所もないのです。サザエさんというマンガが視聴率20%以</p>

B 委員	<p>上超えている。やはり理想なのです。本当はこれが理想なのだよ              ということ踏まえていろいろな社会進出を女性がしていく、そう              いうのもありきでという風に。</p>
議長	<p>学校教育でも社会教育でも家庭の親子関係の絆というところの部              分が全ての基本であるという再認識はできたと思います。</p>
B 委員	<p>それが当然だと皆さんおっしゃるけれど、子ども達に伝えていっ              ていないじゃないですか。</p>
議長	<p>具体的に毎日新聞にこれだけ安心して子どもと一緒に寝られな              い、親と一緒に寝られないということが出ている。でも、逆に地域              教育の視点からとらえていったら、家庭を責めたってしょうがない              と思うのです。</p>
B 委員	<p>もちろん、家庭を責めるのではなく、地域から子どもを守るのは              当然で、やっていかなければならない。でも、どこからか意識を改              革して、本当はこういうものなのだよというベースを伝える所がな              いじゃないですか。親は伝えない。</p>
C 委員	<p>伝えているのじゃないかなと思うのですが。</p>
D 委員	<p>女性との話の中で「楽をなささい」と言うのです。手伝うから言              ってきなさいと。でも家庭の中に他の者が入っていくことは難し              い。入っていくことができれば今言う形が成立してくるのですが。</p>
議長	<p>同じ論議を6月、7月の大半を使ってやっておりました。これはこ              の1年として先頭に挙げてスタートしていかなければならないと感じ              ています。</p>

<p>議長</p>	<p>逆に地域の教育システムづくりと言いますか、地域力と言いますか、その大切さを4年間論じてきた所ですし、事務局の方にも提起をさせていただいている。その中で核となってきたのが、川西として考えていくときに、小学校区毎にあるコミュニティー活動の再認識と同時に評価すべき所は評価、地域差はありますが会としても認め、それを支援していくということが大切だということが論じられたのではないかと考えています。</p> <p>さらに公民館、川西には10館あり、素晴らしい部分がありますので公民館等の施設を含めて教育機関のネットワークを図っていく。あるいは、その機能のさらなる充実を図っていくことが、家庭教育の充実、子育てあるいは子育てとも言いますが、それを支援する場になっていくし、拠点になっていく。実態を再評価しながら、公民館活動のさらなる充実、同時にコーディネーター役の所の部分ですね。NPO等を含めて市民サイドの民の力を如何に活用していくか、官だけではなく民の部分も含めた形での推進体制を取っていくこと。具体的な形でこの会でも里山の報告があり、今日もNPOの資料をいただいておりますが、そういう場面の活動の拠点に官の施設がなるのではないかと。コーディネーターの育成、学校との連携の大切さも論じられた。それと情報発信の工夫、これは子育て、子育ての部分を含めた論議の中で、市長部局から出されている子育てマップを見せていただいて、素晴らしい実践をされている部分をオール川西という意味合いの中で評価しながら、社会教育関係でも活用していく。言い換えればこれも施策の縦割り行政ではない形の部分の、子どもに焦点を当てた所の部分というのも必要ではないかなと論じられていました。</p>
<p>A委員</p>	<p>コーディネーターというのは絶対必要ですよ。各情報を集めたりそれをまとめてつなげていくというコーディネーターは必要であって、それをだれがするのかというのが焦点だったと思います。行政に任ずというのはよくないのではないかと、コーディネーターを専</p>

## 審 議 経 過

No.6

A 委員	<p>門にする人が必要だと思います。それはNPOになるのかなという気がします。</p>
副議長	<p>家庭教育が一番大切で、家庭内で上手くできたらいろいろなことが起こらないのではないかという思いを皆さんしていますね。家庭内の役割というのは、家庭の中で役割分担のやり方があっていいと思います。その所で上手くいかない家庭があれば、それをどう支えていくかが私達の課題だと思います。論議してきた中で、場を作る、場というのは川西でもたくさんあって視察にも行かせていただきましたが、それをどう活かすか、実際私はパレットかわにしによく行くのですが、そのプレールームにお母さん方がたくさん集まられています。来られた時には疲れたような顔をされていたけど、そこですこやか子ども室の方とかの指導、お母さん同士、子供同士が遊ぶ中で帰られる時は生き生きとして帰られる姿というのは何度も見ていて、そういう場が大切だと実感しています。そういう所で生き生きできたら、家に帰ってまた家族の中でやっていける。そういう所が地域の中でたくさんあること、いろいろな地域にある施設、川西の場合でしたら公民館、子育て広場があることを知らせたり、それをどう活かすかということを手くまとめられたらいいのかなという気がしています。活かし方の具体例みたいなのを挙げられたらいいのかなと思っています。</p>
B 委員	<p>結局はコーディネーターということにつながるのではないのでしょうか。ボランティアにお任せするのは無理があるでしょうし。</p>
副議長	<p>コミュニティーの役員の方などがそういうことを担ってらっしゃったりしている部分が結構あると思いますが、その方達はボランティアでされているから、継続してその方の後を育てていくことが難しいことがあると思うのです。その辺、ある程度専門性を持った地</p>

## 審 議 経 過

No.7

副議長	<p>域の中の市民が継続していくシステム、そこに予算も付けてのシステムづくりというのが必要だと考えています。それでないとやっていけないと思います。前回スポーツ21のこともお話をさせていただきましたが、あれも地域に思いのある方だけではその後が無い状況だと思うのです。</p>
B 委員	<p>報酬につながるというのはおかしいけれど、金額的なものを提示していかないと、つながっていきませんよね。ある程度の保障というのはプロのひとつの組織を作る場合必要だと思います。いろいろなことをあっちこちでされてとても素晴らしいのにそれをまとめる人がいないというのがね。</p>
A 委員	<p>運営費というのは掛かりますから。</p>
議長	<p>まず、現実にはどうなのか。それぞれの団体のコーディネーター役、レベル的なものは別として、世話をしながらという部分からスタートをして、それぞれ研修等を踏まえながら、例えば補導委員さんというのが教育委員会の所管ですが、青少年センターにいらっしゃいます。子どもの補導という意味の部分でボランティア的な行動になるのかなと思うのです。そのようにちょっと行政が絡んでお願いをしたりしている部分はあるし、全く組織や団体の中で運営されている部分もあるのでしょうかけれど、経費のことを考えていくと、そこまでは中々入りにくい部分があるのですが、その問題も出てくると思います。</p> <p>前回スポーツ21の指導者の継続性の問題が論議されましたが、経費のことを考えていくと中々行政としても踏み込んだ形の部分が言えなくなりますね。</p>
事務局	<p>今回はスポーツクラブの話でしたので。スポーツクラブは16ある</p>

事務局	<p>のですが、地域によって、また代表をしていただいている方を中心とするグループの方々によって若干思い描いている絵と、地域での活動の度合いや広がりが違うので、代表の連絡協議会というのはあって、意見はまとめることは可能なのですが、それぞれの立場のご意見、うちではこれだけできているからさらにもう一步進めたいという人達もおられるし、もっと足場を固めなくてはいけない、まず人を集めないといけないという人達もおられる、それぞれいろいろな立場がありますので、コーディネーターというのはどういう所からもっていくのか非常に難しいというのがあります。</p>
議長	<p>どの場面でも引っかかってくると思うのです。特に図書館教育というか、読み書きそろばんの読むということで、子どもを育てていく中で読書図書館の重要性というものがクローズアップされています。学校にも図書館はあります。法的には司書をおかなければならない。それでは間に合わないので、地域の皆さん方が図書館のボランティアで各学校に入って休み時間等、図書館の管理運営の相談役のアドバイスをされているということは川西でもどんどん学校で広がっています。これも元をただせば家庭教育に帰ってくる部分を支援している所があるのかなと思います。あるいは図書館の問題になると、各公民館にある図書室の運営等についても、私の経験では子育ての場面で大きな拠点になっているのです。地域の拠点になっている。公民館の図書室といいますと、概略ですが4分の1から半分に近いぐらいは子ども向けの本が書庫を占めていることから、ある一面子育ての拠点になっているものがあるのだけど、そこをコーディネーターがどうかしてあげるという、そういう方が図書室はいまないので、そういう所の充実もこちらの方からもピーアールしていかないといけないと思います。</p>
E 委員	<p>地域コミュニティと学校との連携という所なのですが、前年度</p>

<p>E 委員</p>	<p>地域教育推進委員というのをしております、学校等にアンケートを持って行かせていただいたのですが、コミュニティーと学校が今すごく連携が取れているというのに驚いたことがあります。今回12月の子ども会の委員会の時に、地域で子ども会の活動をする上においてコミュニティーとの関わりとかスポーツ21との関わりとかというのはどうですかと皆さんに聞いたのですが、8小学校だったのですが、スポーツ21ができて最初のうちはやりにくかった所もあったのですが、子ども会の役員とそういう所の役員が上手にコミュニケーションを取りながら上手く連携を取られている。そういうことがあったりしてお互いに活性化していくように、お互いに歩み寄りで努力しているというのを伺ったのです。私自身が思っている以上にコミュニティーや子ども会といった諸団体が上手く連携が取れているなど実感したところです。</p> <p>それからコーディネーター役というのは、例えばそれぞれの自治会の中のコーディネーターを育成していくというお話を、今されていたのですか。それともそれぞれの団体があって、それを連携していくコーディネーターが必要ということでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>私個人は公民館の職員も、もっとしっかりと、リーダーとなって引っ張ってほしいなど、まず身近な所の部分で期待を込めて、それだけ大切な仕事だという捕らえ方で。</p>
<p>C 委員</p>	<p>私も公民館というのは核になっていく所と思っています。コーディネーターというのも、スポーツに関しても、文化に関しても、自治会の地域のことにしても公民館は情報の入りやすい場所なので、そこがやってくさるといいな、横へのつながりができてくるのではないかと感じています。</p>

E 委員	<p>子ども会でもクッキング教室や将棋とかいろいろやっているのですが、公民館を拠点としている地区は、その場所に入出入りするということで情報をもらって帰れている。そこでコミュニティーの人達と話をしたりということもあるらしいので、公民館がコーディネーターの拠点に、というのを結局言いたいですが。</p>
A 委員	<p>コーディネーターなのですが、トータルで学校、地域、家庭、それを引っ付けてくるコーディネーターが必要なのです。コーディネーターがそれぞれの意見を聞いてきて、それを引っ付けていくというのは絶対必要なのです。コーディネーターは一人では無理なのです。学校に詳しい人、地域に詳しい人、家庭に詳しい人がいて、コーディネーター同士でいろいろ話し合いをして決めていって、いろいろ構築していかないとお互いに意見を言い合っているだけではまとまっていけない。それが公民館にできるかどうかという所ですが。</p>
議長	<p>狭い範囲で考えたら、具体的に目に付く所が公民館と浮かんでくるのですが。昨年度、校長の委員さんから実践報告がありまして、これは校長がコーディネーター役をやっているなということで、教育委員さんにも話をしてくれていまして、ただ教育委員さんの方も最後は人だなで終わってしまったので、今日の会もそれで終わったら話が進まないなど。</p>
F 委員	<p>最終的には私個人で思っていたのは、具体的にこういった形のシステムでという落とし込みまでできたら素晴らしいなと思っていました。ただ、それが本当にいいのかなというのをひとつクエッションとして考えているところなのですが、具体的にシステムというのを作るのでも、コーディネーターのことにしても、やはりいろいろな考え方があると思います。公民館の方々に頑張っていただいて、</p>

<p>F 委員</p>	<p>公民館長を頭としてやっていただいたり、学校の校長先生に頑張っていたいただいたり、コミュニティー推進委員会の会長に頑張っていたいただいたりと、核になる本当のリーダーとしてやっていけるような方々がたくさんおられると思うのですが、その他の組織とかいろいろな団体があったりして、その中のリーダーも必要だし、リーダーが育っていない所もあるだろうし。</p> <p>社会教育委員の会、この4年間こういう形で1年間やったことはこうですよ、2年目やったのはこうですよと、ずっと出し続けているのですが、実際それがどうなっていくのかなという所もあります。皆さんの思いはこうなりました。例えば総合計画審議会の中で生涯学習計画を作りました。10年間の考えはこうですよ。というような形で私達の提案は載ると思うのですが、1年単位のものがどういう反映がされるのかなというのが気になります。今年の中の素案のまとめの所でいくと、4年間こういった話をしていって、提案をさせていただいて、具体的な所まで落とし込めないのですが、例えば今現状としてはコーディネーターの話が出て、公民館の方がこういう形で努力されてやったらいいのですよといった投げ掛けくらいはあるのかなと考えています。上手く活動できている地域とか団体とかがあると思うのです。また、上手く活動ができていない地域とか団体があると思うのですが、それが上手く活動できるようなものをこちらからお手伝いするような、システムまではいかなくてもそんなものが提案できればなと考えています。</p>
<p>副議長</p>	<p>コーディネーターということは中間支援ということですね。いろいろな所をつなぎ合わせるということで、コミュニティーの役員さんも頑張つてつなぎ手となって立派なコーディネーター役を果たしていらっしゃる。そういうつなぎ手となることを専門の仕事とする役割の人や組織が、コミュニティー推進協議会でもあってもいいですし、公民館あるいは市民の組織があってもいいかもしれない。支</p>

<p>副議長</p>	<p>える、何かしたいと思っている時に後押しする、公民館の職員の方も公民館でできた新しいグループに対して後押しして下さっていますね。公民館の職員だけでは、公民館の登録グループが50も100もあったら、大変だったりして中々回らなかつたりするかもしれませんが、そこを地域の中で一緒に後押しする、それが中間支援組織なのです。私達は、市民活動やボランティア活動をする団体を支援する中間支援組織をしていますが、そういうものが小学校地域に必要なとは言いませんが、中学校単位ぐらいで地域に合った状態でそういう形のものがあつたら、地域の中で回りやすくなるのではないかと思います。NPOの組織を立ち上げるとかそういうお手伝いをする中間支援組織は、川西市にいくつもいないと思いますが、地域の中で支えるコーディネーター役をするものは、コミュニティーや公民館の中で上手く機能するものができていったらいいのではないかと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>4年間連続して「システムづくり」で、やや抽象的で落とし所が非常に曖昧な形の中で、常に言い続けてきているこの過程の中で少しずつでも認識は変わりつつあるなと私は解釈をしています。子どもが大切、居場所が大切とずっと言い続けられてきている。改めて家庭教育の大切さも言い続けられてきている。PTCAのフォーラム、川西がひとつになったなというような感じで、ちょっと景色を今年から変えられたのですね。オール川西でやっていらっしゃるなというような感じで。今までは市長さんが来賓席の方だったのですが主賓側の立場の形になっている。</p>
<p>事務局</p>	<p>青少年問題協議会で行っていましたが、青少年育成フォーラムですね。PTA連合会の会長さんもその中の委員さんに入っておられるPTCAのフォーラムが意図とか趣旨とかが基本的に同じだし、時期も近いしということで共催し、参加者も増えて今までそんなにたくさん入っていただけなかった青少年フォーラムにも入っていただ</p>

事務局	<p>けました。</p>
議長	<p>縦割りの部分ではなく子どもに関しての施策に関しては行政と市民一体となって合同でやっていらっしゃるということで、オール川西の組織を挙げて全て関わっていくのだなというのが、ひとつの形として出てくるというのは素晴らしいことだと思います。今まで青少年フォーラムは教育委員会の方で、協議会の会長は市長さんですから別々にやっていたのですが、ああいう形で市民に大きくピアーールできるということ、担当はしんどいと思いますがそれは外部で褒めていくことも大切だと思います。F委員もこの会代表で行っていただきましたが、「よかったな」ということで、今日はジュニアのコーラスが出るということで、公民館活動からのグループ活動が子どもの活動の場にと、ひとつひとつの絆が広がっていくのだなと感激して見させていただきました。行政組織の枠を超えて具体的にやっていらっしゃるというのはいいなと感じました。</p> <p>事務局の方ではどうですか。○課長は青少年活動の指導者として民の立場の部分で、ご指導いただいているので率直にご意見をいただけたらありがたいのですが。</p>
事務局	<p>私は外部コーチではないのですが、このあいだ東谷中学へ行ってきました。私が東谷中学の2年生の時に剣道部ができて入部したのですが、高校も剣道部に入り、大学の時もコーチに来ていました。自分の剣道人生は東谷中学の剣道部と一緒にだと思っています。このあいだ久々に東谷中学の剣道部に行って指導していたのですが、今、東谷中学の剣道部というのは体育館が週1回しか使えないのですね。ところが女子の方は川西川辺で1番、阪神でも1番で、県大会まで行く。そこまでいくには猛練習しなくてはいけないのだけど、学校は</p>

<p>事務局</p>	<p>週1回しか使えない。顧問の先生は2人いらっしゃってどちらも剣道を知らない。川西中学や多田中学は剣道場がある。東谷は剣道部に道場がない。でも東谷中学の剣道部がいい成績を残しているというのは、先生も素人ながら熱心に来ていらっしゃって子どもの心を捉えて指導する。技術は外部コーチに頼むというような感じ。子どもが熱心で、先生は自分ができない所を上手く外部コーチを使いながらされている。また、親がものすごく熱心なのです。親が熱心であり、子どもが一生懸命であり、周囲の者が育てていこうという気持ちになれば成績に出てくるのだなと思っています。もしここに道場があり、専門の先生がいた時に、これだけの成績が挙げられるかといったら、逆にダメじゃないかなと思います。皆がハングリーを持っているのです。親も周りも何とかしてやりたい、自分もこうなりたいと言っている。子どもだけ、指導者だけ、親だけがそう思っているだけでもダメで、トライアングルのようになった時に、上手くいくのではないか。人づくりであっても公民館活動であっても、こういうことをやりたいと言う人がグループを作られ、指導者とそれを支える者、そういうものがピタッとなった時に育つのではないかと思います。どれかひとつだけ欠けてもダメだという気がします。</p>
<p>議長</p>	<p>現実に地域の住民として子どもに関わっていきながらの報告で、やはりコーディネーターという言葉の捕らえ方はいろいろあるのですが、影響力というのはものすごく大きいのです。伝統であったり自分の母校に対する誇りであったり、自分の指導した子や関わった子3世代に渡って人の絆が広がっているのですね。関わっていくことの大切さと喜びと、人に与える心の部分への影響力の大きさ、地道で成果がすぐに出るわけでないけれど。</p>
<p>A 委員</p>	<p>指導者の気持ちひとつで随分違ってきます。取り組む姿勢をちゃんとしていけば子どもにも伝わるし、子どもについて行く父兄にも伝わる。今まで自分は柔道協会においてスタッフに任せること</p>



議長

人生観があるので、それを乗り越えた形の中でのつながり、家族の中でも大変な時代で、その周りの部分はなおさらそれを乗り越えた形の中でいかなければいけないという崇高な営みというように思うのです。

ニュースを見ていましたら日本の裁判制度も変わってくるのですが、執行猶予付きの実刑判決で執行猶予中はアメリカ式にボランティア活動を義務付ける、そういう方向を考えないといけないのではないかと法務大臣が記者会見をやっていましたが、それもひとつの方法だと思うぐらい、逆な意味では権力を持ってそういうようにしていけないといけないというか、これは議会制民主主義の話だけど、考え方が違う部分で論議をしてひとつの方向に持っていったる。何々づくりであったり、コーディネーター役と、小さな村社会であってもそういう所があるので、本当に地道な活動ですが、できる所ひとつひとつを提起をしていくということでまとめさせていただけたらありがたいと思っています。